

令和3年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

愛媛県立北条高等学校

1 取組の目的

- (1) 生徒が松山市北条地区の地理的情報と災害について正しく理解し、危機意識を高め、自他の命を守るために主体的に行動できる能力を身に付ける。
- (2) 学校と教職員の災害時における役割を理解し、教職員の資質向上を図る。
- (3) 災害に関する専門家からの指導・助言により、実践的な知識を習得する。
- (4) 訓練を通して、学校安全マニュアルの見直しを実施する。
- (5) 県が教職員の防災士育成を行っていることから防災資格取得者を中核教員として位置づけ、モデル地域内における学校間での連携や自主防災組織との連携など地域と一体となった取組を実施する。

2 取組の内容

6月 防災に関するアンケートの実施

北条高校・北条北中学校・北条南中学校の全校生徒を対象に Web アンケートシステムを利用して実施した。

7月12日 緊急地震速報システム導入

本校事務室に、緊急時にFM放送を受信すると校内放送設備と連動する緊急地震速報システムが整備された。



7月28日 教職員研修の実施 (HUG 研修会)



松山市役所防災・危機管理課、防災リーダークラブの御指導により、避難所運営ゲーム HUG の研修を実施した。図上訓練は、災害時に避難所となる学校にとっては必要である。

9月29日 予告なし避難訓練（体育大会）



体育大会中に、緊急地震速報システムの訓練放送を使用して、地震発生を想定した予告なし訓練を行った。保護者の方にも参加していただいた。避難完了後は、垂直避難の説明を行った。

10月31日 北条南中学校防災講座



高校生がアドバイスをし、ハザードマップを確認しながらマイタイムラインを作成したり、避難所に何を持っていくか非常持ち出し袋について考えたり、避難所体験としてダンボールベッド組立を行ったりした。避難所運営ゲームをして、災害時に自分たちにできることを考えることができた。

11月5日 防災に関する講演会（文化祭）



愛媛大学防災情報研究センターの森脇亮教授を講師に招き、「自然災害多発時代にどう立ち向かえるか」というテーマで講演会を実施した。

11月5日 文化祭での啓発活動



松山市消防署北条支所の御協力により、起震車体験を実施し、生徒・保護者約 80 名が震度 7 強までの地震体験をした。防災展示コーナーでは、非常持ち出し袋の展示、生徒が作成したマイタイムラインの展示、防災クイズ、ダンボールベッド体験、SDGs の視点を取り入れた非常食準備のローリングストック法の紹介など、生徒・来校者に興味を持って見ていただいた。

11 月 5 日 予告なし避難訓練（文化祭）



文化祭の途中、地震を想定した予告なし訓練を実施した。消防署の方から御指導いただいた。保護者の方にも参加いただき、放送用マイクを使用しない形式で訓練を行い、教職員も危機意識を持って取り組んだ。生徒は、今年度 3 回目の避難訓練であったため、迅速に避難行動が取れていた。

11 月 9 日 防災に関する公開授業



1・2 年次はホームルーム活動で避難所運営をテーマに公開授業を実施した。1 年次は避難所運営ゲーム HUG を用いてグループワークを行い、2 年次は本校全体が避難所となった時を想定して行った。3 年次福祉系列の授業では高齢者の避難所での支援をテーマとしていた。

11 月 14 日 PTA 研修会でのミニ避難所体験



ダンボールベッド、ダンボルトイレの組立を取り入れたミニ避難所体験を行った。数あるダンボールベッドの中から、感染症対策、プライバシー確保の視点を取り入れ、パー

テーション機能のある「ひらいてぼん」を活用した。防災グッズ、ハイゼックス炊飯なども紹介し、好評であった。

11月19日 公開授業の視察（南宇和高校）



今年度、本校と同じ事業の指定を受けている南宇和高校の公開授業を参観させていただいた。津波被害想定地域でもあり、地域から求められている高校生の役割を理解して活動している様子がよく分かり、学ぶことが多かった。

12月17日 シェイクアウトえひめ



毎年、シェイクアウトえひめに参加している。今年度は、1分間の身を守る行動のあと、津波警報発令を想定した垂直避難指示を行い、垂直避難訓練を実施した。避難完了確認まで要した時間は4分。生徒の避難は早かったが、教職員の安全確認報告に多少時間を要した。

6月～12月までのタブレットを活用した防災教育

6月	防災教育①非常持ち出し袋を考えてみよう	防災に関するアンケート
7月	防災教育②マイタイムラインを作成しよう	
9月	防災教育③災害用伝言ダイヤル	防災に関するアンケート
10月	防災教育④洪水災害に学ぶ	避難訓練後の振り返り
11月	防災教育⑤地震に強い家・そなえる	防災に関するアンケート
12月	防災教育⑥人間を救うのは人間だ	避難訓練後の振り返り



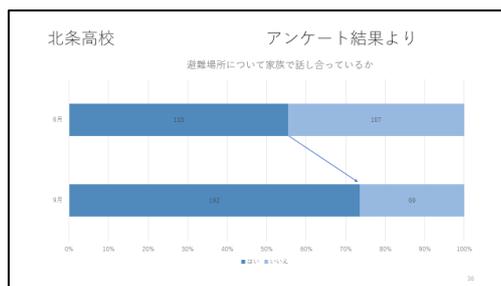
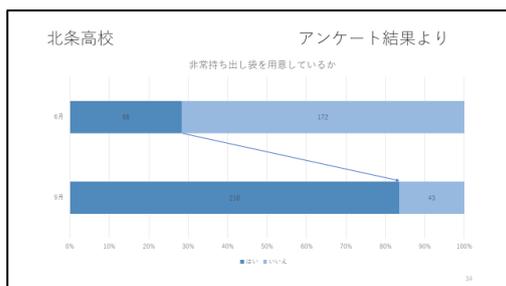
松山市は全世代型防災教育を推進しており、サポート動画を作成している。この動画

を活用して、防災教育を進めた。全校生徒がタブレット端末上の「防災」チャンネルにある月ごとのテーマに取り組んだ。知識の定着度を図るためアンケートによる振り返りを実施した。全校生徒が「マイタイムライン」作成に取り組み、家庭での避難経路・避難場所などの確認ができた。

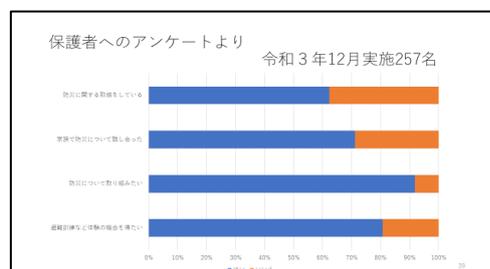
3 取組の成果

緊急地震速報システム導入後に予告なし訓練を実施した。学校行事の中での実施により、来校中の保護者にも訓練を体験していただくことができた。いざという時の行動を、生徒・教職員ともに確認することができた。

今年度より、生徒にタブレット端末が貸与された。松山市が作成している防災教育動画を活用した。松山市の防災マップは充実しているため、避難計画のための「マイタイムライン」作成を全校生徒に取り組ませた。また、家庭での防災の取組として「非常持ち出し袋」についても用意するために、夏休み課題として取り組ませた。このことにより、非常持ち出し袋について80%の家庭で準備ができた。



本校保護者に対して12月アンケートを実施した。生徒が学校で取り組んでいる防災教育の情報共有はおおむねできていた。90%以上の方が防災について取り組みたいという意識を持っており、80%の方は、避難訓練など何らかの体験や研修の機会を持ちたい意識を持っていることが分かった。6月に寄贈された非常食（備蓄米）を各家庭に持ち帰り、非常食の試食をしたことは特に印象に残っていたことも分かった。



生徒・教職員に12月に実施したアンケートでは、生徒では98%、教職員では100%に防災に対する意識が高まったと答えていた。さまざまな防災教育の実践の成果であると感じている。避難訓練や実際の災害発生時に、安全な避難誘導、誘導に協力できるかに対しては、協力できる38%、適切な指示があれば協力できる58%であった。災害時におけるリーダー

は学校においては教職員である。教職員が適切な指示を出すことができるためにも、さまざまな想定の実践訓練を重ね、意識を高めておく必要があると感じた。

4 今後の課題

コロナウイルス感染症の流行により、防災先進地視察や学校間連携活動が難しかった。北条地区での防災避難訓練も中止されており、自主防災会との活動連携ができなかった。来年度以降、地域との連携した防災避難訓練が実施できるよう、地域からの要請に応じて柔軟な対応ができるようにしたい。今後実施する避難訓練には予告なし避難訓練を取り入れ、さらに、避難経路が使用できない、負傷者がいるなどの緊急対応も想定して訓練を行い、教職員の非常時対応のレベルアップと生徒の自助力の向上を図りたい。

愛媛県の取組により、教職員の防災士育成が進み、本校では現在 10 名の防災士がいる。今年度中核教員を中心に HUG 講習会を体験した。防災士である中核教員が防災教育の中心となり、生徒に指導できるような実践的なスキルアップを図りたい。

来年度松山市では、全世代型防災教育の更なる推進のために、「マイタイムラインシート」を各家庭に配布する計画がある。本校においては、総合学科の特長を生かし、1 年次生「産業社会と人間」において松山市役所防災・危機管理課の協力による防災教育講座を行い、防災教育を継続する。2 学期のホームルーム活動でも全学年で防災教育を続けて実施する。体系的な防災教育を継続して行うことができるように、松山市・北条地区と協力していきたい。いつか起きる災害に備え、自助力を高めることができる活動を継続させていきたい。